なにをかはなどの給はする御けしき、いかゞみゆらん、いとゞ心づかひしてさぶらひ給、さてうたせ給に、三ばんにかずひとつまけさせ給ぬ、ねたきわざかなとて、まづけふはこの花ひとえだゆるすとの給はすれば、御いらへ聞えさせで、おもておもしろきえだをおりてまいり給へり、

〔増鏡一をどろの下〕かくて院〇後鳥羽のうへは、〇中略御碁うたせ給ふついでに、わかき殿上人どもめして、これかれこゝろのひきゞに、いどみあらそはさせ給へば、あるはこゆみゑゆぐろくなどいふことまで、思ひ〳〵にかちまけをさうどきあへるも、いとおかしう御らんじて、さまゞ〳〵のけうあるのり物どもたうでさせ給ふとて、なにがしの中將を御つかひにて、修明門院〇後鳥羽后藤原重子の御かたへ、なにゝてもおのこどもにたまはせぬべからん、のり物と申されたるに、とりあへず、ちいさきからびつのかなものしたるがいとおもらかなるをまいらせられたり、この御つかひのうへ人、なにならむといとゝいぶかしくて、かたはしほのあけて見るに錢なり、いと心えずなりて、さとおもてうちあかみて、あさましとおもへるけしき、ゑるきを、院御らんじおこせて、あそんこそむげにくちおしくはありけれ、かばかりの事ゑらぬやうや〇や原脱、今據二一本一補はある、いにしへより殿上ののりゆみといふことには、これをこそかけ物にせしかされば、いまかけものと聞えたるに、これをしもいだされたるなん、いにしへの事ゑり給へるこそ、いたきわざなれとほゝゑみてのたまふに、さはあしくおもひけりとこゝちさはぎておぼゆべし、大かたこの院のうへは、よろづのことにいたりふかく御心もはなやかに、物にくはしうなどぞおはしましける、

〔二水記〕大永六年七月十九日、午刻參内、竹内殿御祗候有御碁、懸物、予〇藤原隆康拜領、尤祝著也、

〔梵舜日記〕慶長八年五月廿二日、於二豐國二位宅一、勝負碁興行、懸物、三百疋刑部豐後兩人、晩食用意申也、

〔因云碁話六〕賭碁流行の事

圍碁雙六ともにいにしへは賭物ありしと見えたり、然れども其の甚だしきに至るゆえ、憲章賭

賭碁